



議会だより

No.33

2014年2月1日 発行
発行 仙北市議会
編集 仙北市議会
広報編集・特別委員会



12月定例会・主な内容

- 議長挨拶・予算・
- 決算常任委員会報告……2～3
- 一般質問…………… 5～10
- 各常任委員会報告 ……11～14
- 市立角館総合病院建設に関する調査特別委員会の審査経過……………15
- 表彰・編集後記……………16



無火災を願い堂々として行進

議会の責任と議員の役割



仙北市議会議員
佐藤 峯夫

- 一、議会の動きが見えない
- 一、報酬の引き下げ定数の削減
- 一、議会不要論の胎動

以上の一般市民の声を私は断固拒否する。

「議会とは、そもそも皆様の税金の使い道をチェックするため、イギリスで生まれた仕組みであり、執行部のチェック機関としての責務が第一である。市長も議員も選挙で選ばれた二元代表制であり、対等の立場である」

これが、私の議会に関する答えである。

ゆえに、去る12月議会では、速やかに幕を閉じようとする二議案に対し、「原因究明と再発防止策が不十分」として、採決せず、継続審査することに決定した。

このことは、チェック機能を充分発揮した一例でもあり、議会が、決して市長の「下請機関」ではないことを、市民に示したものである。

永年にわたり「議会改革推進協議会―佐藤直樹座長」が、一生懸命心血を注いだ議会基本条例によって、私は決断と勇気を与えられ、それに基づく議会運営がなされていることを、強く、市民の皆様にご訴えすると共に、議会に対する再考と再認識を願うものである。

(一月二日記)

第7回 仙北市議会12月定例会

平成25年
12月2日～24日

平成24年度一般会計決算 歳出額185億126万円4千円を認定
平成25年度一般会計補正予算 1億3698万3千円の補正額を可決

12月議会開会 20日に会期延長

第7回定例会は当初12月2日～20日までであったが、議案の再提出があり4日間延長され24日に閉会した。

提出議案は先決処分関係1件、条例関係4件、予算関係14件、指定管理者関係1件、人事関係2件、議員提出議案関係6件の計28件である。

★本会議 6日間
会期の主な日程は次の通り

議案上程1日、一般質問2日、議案質疑1日、討論採決2日(但し1日は追加議案のみ)

★常任委員会 2日間。

★予算委員会 分科会含めて4日間。

一 一般会計以外の特別会計補正予算10件中の主なもの

●下水道事業特別会計補正予算 247万5千円

電気代の値上げによる。

●国民健康保険特別会計補正予算 ▲936万円

田沢・神代両診療所決算確定の為。

●仙北市病院事業会計特別補正予算 300万円

災害派遣チームの為の費用。震度6弱以上の地震の際国・県の要請あり。

決算常任委員会報告

24年度一般会計決算 賛成多数で認定

歳入総額

189億127万3千円

歳出総額

185億126万4千円

差引残額 4億8千円

9月定例会において継続審査となった「議案第105号、平成24年度仙北市一般会計歳入歳出決算認定について」の審査の経過と結果について議会8月28日、9月4日、及び10月21日の3日間にわたり田沢湖庁舎で開催された。

また、閉会中も10月15日、16日と二日間にわたり3分科会が審査を行い委員会最終日の10月21日に賛成多数で可決した。

主な質疑は次のとおり。
各分科会からの報告は次のとおり。

総務文教分科会

一 電源立地地域対策交付金の政策への充当先は慣例化している。見直しを図るべきである。

二 地域運営体事業のすみ分けの内容が不十分であり、本当に地域に必要な事業を

推進すべきである。昨今の決算審査時の指摘に対する改善が図られていない。
三 高校入学準備金の滞納処理に当たっては、厳しい姿勢で臨むべきである。

市民福祉分科会

一 防災行政無線での時報については地区別に対応する等の柔軟性に配慮すること。

二 母子保健対策での乳幼児健診は3歳児までであるが、小学校就学前5歳児までの健診を実施すべきである。

産業建設分科会

一 道路改良の執行に当たり多額の不用額につながるような業務を遂行すること。

二 設計積算の業務に精通した人材の確保・育成に努めること。

三 決算審査に臨む参与の準備不足は否めない。説明が難しい点は資料を準備する等の心構えが必要である。予算執行にあたり担当の責任感が欠如している場面も

あった。
当局には仕事に対する信念と自信を持ち、説明や答弁に当たりたい。
討論では次に要約される反討論があった。
不認定の理由の要旨として

一 木質バイオマス事業は本来の目標に達していないこと。
二 地域運営体事業の課題は先送りとされ、すみ分けの内容が不十分である。その役割が市民のために十分に果たされていないこと
本会議での採決
賛成多数で可決された

予算常任委員会報告

予算常任委員会は分科会を含め4日間開かれた。
主な予算は次の通り

●本庁舎維持管理費

232万円

電気料金と燃料費の値上げによる3月までの補正。

●老人福祉施設措置費

567万円

入所被措置者の増加の為

●医療給付費

481万円

3月までの医療費増額見込み分

●こども・子育て推進事業費

1128万円

27年度から始まる新しい子

育て支援のためのシステム構築費用。全額国負担。来年度入金予定。

●豪雨対応時間外手当

670万円

先達の豪雨災害時の時間外手当約136人分。

●認可保育園管理費

241万円

15%電気料金値上げを見込む

●簡易水道事業特別会計繰出金

208万円

9月から電気料金値上げに対する補正。

●戸別所得補償経営安定推進事業費

500万円

農地集積協力金全額国県負担100%

●木質バイオマス施設管理費

1638万円

臨時職員賃金・電気代・燃料代の値上げ分。

●誘致企業対策事業費

620万円

誘致企業(株)司食品工業に対する補助金、建物移転費と立ち木伐採費

●平福美術館常設・企画展示費

115万円

藤あや子所有絵画・陶器を展示する為の運搬費等。

会期4月1日から4月20日

●農業用施設災害復旧費

1270万円

水路2ヶ所と頭首工1ヶ所の整備

浦志内等いずれも西木町

●林業施設災害復旧費

9228万円

西木2路線、田沢湖7路線

●公共土木施設災害復旧費

3565万円

下高野線、町田線、小先達2号線、耳除中山線4ヶ所全て生保内地域

分科会の主な質疑は次の通り

総務文教分科会

藤あや子展開催経緯について

本人が美術館を鑑賞した際の「私も仙北市に元気を与えられたら」という思いを汲み企画された。美術館の運営協議会は、秋田市のエリアなかいちがある美術館でも大衆的、サブカルチャー的作品を展示している例に倣い、内外にアピールできる集客の側面と地元出身者であることも考慮し開催することにした。

市民福祉分科会

義援金の配分について

10月の臨時議会での970万円に続く81万4千円の追加配分である。

寿楽荘の移転改築について

進捗率は12月10日現在78%年内に完成予定、2月中旬に引越し予定である。

産業建設分科会

木質バイオマス施設管理運営費について

大きく不足したのは9月1

日からの電気料金値上げの為。

企業誘致対策について

用地取得が遅れていることから(株)司食品工業の工場建設は来年7月か8月頃と想定される。

雪寒地域建設機械整備費について

整備費は1900万円の減額であったが、除雪体制について質疑した。

除雪体制については昨年までは田沢湖4名、西木地区1名の直営体制であったが今シーズンから全て業者委託となった。緊急時や事故等のために、建設課と地域センターとが連携して対応する体制を執っている。委託単価は1千万円アップだが、オペレーターの確保が課題となっている。

先達地区の災害復旧について

応急工事は終了している。現在は国交省の砂防堰堤に全力を注いでいる。

反対討論

企業誘致対策事業費の物件移転補償費620万円のうち、木造建物1棟の移転補償費470万円の評価が妥当な

ものかどうか、現時点で住民へ説明責任を果たすことが出来ないので、反対である。

委員会採決(12月18日)

賛成多数で可と決定した

本会議採決(12月20日)

賛成多数で可決された。(八柳良太郎記)

表紙の説明

去る1月6日仙北市消防出初式が挙行された、著しく高齢化の進む地域社会だが、この日は若い熱気が現場周辺にみなぎった。写真は武家屋敷から健康管理センター(中菅沢)までの分列行進の1コマ。(阿部則比古記)



平成25年 第7回 仙北市議会定例会賛否が分かれた議案 (招集日:12/2 最終日:12/24)

凡例: 賛→賛成、反→反対 欠→欠席 退→退席 (議長は、法律に定める特定のケース以外では表決をしないことになっています)

議案番号	会派及び氏名等 件名	議決月日	議決結果	民 政 会 議					仁政クラブ					む 翠 会				侍 志 の 会			会派に 属しない議員		
				伊藤邦彦	阿部則比古	安藤武	狐崎捷琅	門脇民夫	佐藤直樹	黒沢龍己	田口寿宜	高橋豪	稲田修	小林幸悦	藤原助一	田口喜義	荒木田俊一	小田嶋忠	八柳良太郎	青柳宗五郎	平岡裕子	熊谷一夫	高久昭二
				賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛
議案第105号	平成24年度仙北市一般会計歳入歳出決算認定について	12.2	原案決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	
議案第131号	平成25年度仙北市一般会計補正予算(第11号)	12.20	原案決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	
議員提出議案第17号	市立保育園・幼稚園のあり方に関する決議について	12.20	原案決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	

一般質問



・仙北市の財政について
・医療局について

民政会議 阿部則比古 議員

仙北市の財政について

質問 これまで幾度かお話ししてきたが、非常に重要な問題なので今一度質問する。今後激しい市民人口の減少による自主財源の減少に加え、合併による特例加算金14億円も28年度から段階的に削減される。しかし今私が一番心配しているのは、国の借金が1千兆円を超えてなお大変なペースで増えつつあり、財政規律の悪化に対する諸外国の突き上げによって、安倍首相も2020年まで国の基礎的財政収支（プライマリーバ

ランス）を黒字化すると国際公約せざるを得ない状況だ。今後否応なしに地方切捨の時代に入る。こうした中で地方が生き残って行く為には大胆な財政改革しか方法が無い。負債を減らし財源を蓄積しなければ生き残れない。このままでは今後一層の財政の硬直化が予測されるがどのように考えているのか。

答弁 議員が日本の国政に後の財政を心配される気持ちは十分理解できる。地方公共団体の基幹的な収入といえる地方交付税はその制度設計の見直しが議員のお話の通り決まっている。市税、固定資産税も大きな伸びを期待できない。

自主財源を確保する環境を整えなければ歳出抑制しか打つ手がなく相対的に厳しい状況と言うことには変わりはない。このような中で全国の自治体が財政対策連絡協議会を発足させ総務省に普通交付税の算定の見直し活動を展開中である。

一方、歳出については人件費は減少傾向が続くが近い時期に限界レベルに達する。これ以上職員を減らすと住民サービスが全く出来なくなる

からである。実質公債比率、将来負担比率など数値は改善されているが他市に比べ大変厳しい状況にあることは変わりはない。今後も組織の再編財源の確保に努力したい。

地域運営体について問う

質問 一期目の目玉政策としてきた地域運営体と二期目ではどのようにするつもりか。一期目の評価を踏まえながらお聞かせ願いたい。

答弁 一期目でなし得ることが出来なかった政策は引き続きその時流にあった形で改善をし、皆さんからご協力を頂きたいと考えている。

来年度は予算の作成に当たっては次の3点を考えている。

1点目は、上限が一律500万円という従前の考え方の見直しである。

2点目は、地域運営体を取り組んできた除雪作業を福祉政策の中で市が行う。

3点目は地域運営体同士の連携への着手を推進する。

医療局について問う

質問 市民福祉常任委員会や角館病院建設特別委員会ではしばしば議論になるが

医療局がうまく機能していない。今後どのようにするつもりかお尋ねしたい。

答弁 医師不足、病院経営、医療スタッフの配置、病院連携、機能分担等多くの課題を解決できる予定であったが実際はうまく機能しなかった。このような環境になってしまったことに関係の方々にお詫び申し上げなければと思っている。

質問 組織と機能についてはお話ししたいことが沢山ある。長くなるので省略するが最後に、何故院長を医療局の副管理者にしないで

副院長を副管理者にしたのか。それがそもそも医療局機能不全の発端ではないのか。

答弁 私の認識では病院長は病院経営等、病院の束ね役ということで大変重要な職務を担っていると。副院長であればその補佐という形になるので出来ればお時間を頂くことが可能と思つた。

医療局については難しい問題が沢山潜んでいるので今すぐとは言えないが熟慮に熟慮を重ね決断するしかないと思つている。

(狐崎捷郎記)



難しい問題が潜んでいる医療局

一般質問

・コメ政策について
・神代中央道路延長計画について



仁政クラブ 黒沢龍己 議員



農業ビジョンを早急に示せ！

だきたいと思っている。

質問 取り組み作物の選択について、減反廃止後に何に組み組んでいくのが仙北市にとって一番有利な作物になるのか、いち早く農家に示していただきたい。また、飼料米への転嫁等、水田のフル活用を望むものだが、市の考えを伺う。

答弁 飼料用米、米粉用米への取り組みや、中山間地向けには、専用品種、多収性品種の導入を促進し、問題を解決していきたい。しかし、需要と供給のバランスを確保する必要があるであり、JA等集荷業者との連携を更に強め、情報の共有を図らなければいけない場面に直面している。

収益性の高い園芸作物、花卉の取り組みや加工などを前提とした振興作物、在来野菜への取り組みを増やしたい。園芸作物については試験圃を設置し、JA秋田おぼこと連携のもと、主にJAが推奨する作物に取り組んでいる。来年度も試験圃で取り組み、生産出荷体制の確立をまず急ぎたい。

質問 中山間地域農家の格差課題について、国の政策で一番心配なのが、中山

間の小規模農家をどのような形で維持・継続していくのかという点である。各自治体、農業者と今後の進め方をじっくりと協議する事が大切であると思うがどうか。

答弁 現在、中山間地域等直接支払交付金制度を軸に支援をしており、来年度の継続実施をする予定である。しかし、来年度で本事業第3期対策は終了する事になっており、その後の制度については不透明な状況である。

高齢化、農地の流動化が進む中で、活動環境も年々厳しさを増す状況にある事から、今後も国や県に事業の継続を要望し、それらの状況をリアルタイムで皆様に提供し続けたい。

質問 6次産業化に対する市の考え方について、あきた食彩プロジェクトで取り組んで来た6次化拠点施設が、角館プラザホテル跡地を活用する計画になっている。

農家レストランの充実等も踏まえ、予定されている施設を活用し仙北市の農家に6次産業を推進する一つの良い手段になるものと思う。6次産業に関し、もっと踏み込んだ考えを伺う。

答弁 地域資源の最大活用に取組む覚悟である。市内で生産されている様々な農業素材を発掘し、販売及び加工等により付加価値を高めた商品開発、支援の継続も行いたい。農業を初め関係する人材の発掘、ネットワーク化、これらを強化し地域経済の活性化と雇用の創出を図ってきたい。

今後も国・県の支援策を有効に導入し、農業所得の向上、雇用の創出を図る為、民間事業者と農業者が連携した農業の6次産業化施策を強力に進めていきたい。

神代中央道路延長計画について

質問 この路線の必要性、利便性を考えた場合、更なる延伸や松木内川に新橋梁を建設する等の計画になると、より一層広域的な交通の利便性が図られると考えるがどうか。

答弁 延伸については、今後、事業計画等の変更も含め再度検討をしていきたい。新橋梁については、予算面の議論が必要な事から、リサーチをさせていただきたい。

(田口寿宜記)

コメ政策について

質問 農業所得減少対策に方々の不安を解消する為にも、市として考えている農業所得の向上策を早急に示していただきたい。

答弁 国の性急な政策の転換、その後の日本農業の元気づくりに向けた具体的政策の不透明感等、大変不安な状況であると強く認識している。農家の方々、関係の方々の不安を払拭する為に一生涯懸命に取り組んでいく決意である。

所得向上対策として、消費者、実需者に限定選択される農作物、加工品の生産販売を強化する事が何よりの基本と

考えている。経営感覚に優れた担い手の育成、規模拡大によるコスト削減、産地の育成や強化などは不可欠な要素であり、施策全般を戦略的に展開する必要がある。これまでも多くの場面で農業関係の方々の意見を伺い、将来的なビジョンの作成について検討して来たが、来年度は仙北市における戦略的な農政ビジョンを立案し、皆様に協議いた

一般質問



門脇市政について

議員 荒木田俊一 翠巒会

二期目に入った門脇市政について

質問 ①1期目の「明日を創る8つの約束」は継続するのか。

②市民の満足度が上がらない理由をどう捉えているか。

③市長の思いが先行し、職員との政策協議が十分行われないまま、提案や実行がされていると感じるが市長はどうか。

④市長のスケジュールがあまりにも過密で、外に向けた行動は多いが、内部がおろそかになってはいないか。

答弁

①市の課題解決と市民が将来、夢を持ち安定した生活をすごせる市政を実現したい、との思いで「明日を創る8つの約束」を示した。検証は厳しい評価だった。諸課題や見直しも行い、2期目に示した4つの決意と共に引き続き推進していきたい。

②多くの市民は、市政・職員の対応に対して満足していない現状である。市制施行から8年経過したが、職員には市民としての自覚を更に深め、市民には、協働のまちづくりの担い手として共に前へ進んで頂きたい。

③職員との政策協議は部長会議や予算編成作業等多くの場面を作っているつもりである。市民生活を向上させ施策を推進し実践する事が私の仕事と認識している。しかし、職員は慎重さを重視するあまり、事務処理や事業推進のスピード感が私と大きく乖離している事は自覚している。

④1期目はトップセールスに取組んできた。しかし、県内の首長の行事予定を見れば、県外公務数は他市町村と比べて多いものではない。結果的に市内行事・会議への参加が増え、職員との意思疎通、政策協議時間をじっくり持つ

事が困難となっている。内部がおろそかにならないように組織再編や人事も含め改善を進めてまいりたい。

機構改革について

質問 ①環境防災課の防災部門は市長の直属として総務部に変更すべきと思うかどうか。

②消防団に緊急時に避難誘導や現場に応じた機別団員制度を導入する考えはないか。

③調査をすると約束した角館庁舎問題はどうか。

答弁 ①市長と防災部門が同一の庁舎で執務する組織体制が重要と考え、平成26年4月に防災危機管理部門を田沢湖庁舎の総務部に設置する方向で検討している。

②平成26年度の調査研究を経て平成27年度の機別消防団員制度の導入を目指し、事務作業を進めていきたい。

③2月末に耐震診断調査業務が完了する。検討を加え、全ての庁舎のあり方をまとめた庁舎整備構想等を来年度策定する。これを一体型庁舎を議論するたたき台とする。

市の記念日の制定について

質問 平成26年9月には市制10回目の誕生日を迎える。この機会に市の記念日を制定する考えはないか。

答弁 合併の3町村の調和と一体的発展を目指すためにも市の記念日はほしい。なければいけないと思っている。

表彰規定について

質問 平成23年に表彰規定を設けながら運用されていない。市民を評価し、市政に活力を与える為にも適正に運用する必要があると思うかどうか。

答弁 仙北市表彰審査委員会に基き市長が決定する事になっている。市制10周年記念式典等の際には功労が顕著な皆様を表彰したいと考える。

急変する農業政策問題について

質問 ①影響をどのように捉えているか。経済的な面、市政に与える影響、環境維持の面からどうか。

②対応策をどのように考えているか。特に「戦略作物助成産地資金」はどうなるか。

答弁 ①大変大きな影響が及ぶと捉えている。米価の下落等に基づき収益が落ちる考え方をしている。環境面でも、中山間地の荒廃を食い止める手立てが必要。

②戦略作物助成の稲及び加工米は現行通り。米粉用米、飼料用米は、数量払いを導入する。ソバと菜種は産地交付金からの交付で戦略作物から分離され、単価を地域で設定することになる。農家が損しない制度設計をと考えている。

伝建群の火災・防災訓練について

質問 11月3日に伝建群で火災・防災訓練が行われた時に、訪れた観光客から市長・議長宛で苦情を頂いている。観光客誘致キャンペーンを行っている一方でこの苦情である。今後、どう対応していくのか。

答弁 (教育長) 全国火災予防の日曜日に行ってきた。しかし、最も美しく武家屋敷を見ていただける時期に、おいでになったお客様に、不快な思いをさせた。今後の防災訓練の持ち方、時期等に関係の皆様と相談させていただきたい。

(熊谷一夫記)

関連記事は14ページにて掲載いたします。

一般質問



・財政の「見える化」…公会計制度の導入について

熊谷一夫 議員

資料-3 (単位:万円)

平成24年度		平成25年度		平成26年度	
経常経費	経常収入	経常経費	経常収入	経常経費	経常収入
255	155	254	158	238	148

※平成24年3月31日現在の人口は34,558人

ア 経費について
経費は、昨年度より増加して見られる。削減に向けた取り組みを進めることにより、削減される見込みである。平成25年度は経常経費が254万円、経常収入が158万円、経費対収入率が100.6%となる見込みである。平成26年度は経常経費が238万円、経常収入が148万円、経費対収入率が160.8%となる見込みである。

イ 収入について
収入は、平成25年度は経常収入が158万円、経常経費が254万円、経費対収入率が100.6%となる見込みである。平成26年度は経常収入が148万円、経常経費が238万円、経費対収入率が160.8%となる見込みである。

ウ 経費削減について
平成26年度は市費削減が9.5%、経常経費が238万円、経常収入が148万円、経費対収入率が160.8%となる見込みである。平成27年度は市費削減が10.5%、経常経費が216万円、経常収入が140万円、経費対収入率が154.3%となる見込みである。

エ 経費削減の取り組みについて
経費削減の取り組みとして、経費削減に向けた取り組みを進めることにより、削減される見込みである。

H20年より公表の鴻上市財務諸表抜粋

質問 財政の「見える化」…公会計制度の導入について

(1) 全国の自治体に大別して四種類あるが、どの会計モデルを採用するのか。

(2) 公会計制度の導入時期はいつになるのか。(財務諸表の公表時期はいつか)

(3) 公会計制度の活用について

①資料2と3は鴻上市の財務諸表のバランスシートで、平成20年度より公表している。これにより市の財政が見えてくる。この形を仙北市政に活

答弁 (1) 本市では総務省改訂モデルを採用し、整備に向けて作業を進めている。

(2) 固定資産台帳の整備と確認に難儀しているが、平成26年度公表を目指して鋭意努力していきたい。

(3) ①指摘をされた論点に異論はない。市民一人当たりの資産と負債が確実に目に見える化ができる利点がある。

②インフラ資産の選択と集中は、将来世代への負担を考慮しながら議会・市民と一緒に

質問 命を守る防災・減災対策について

①安全・安心メールの加入率向上の施策と自主防災組織を何箇所作る計画か。

②2度の大きな災害(水害と土石流)が起こった8月を「仙北市防災の月」と制定し、この期間に防災教育、防災・避難訓練等を行い、防災意識を高め「命を守る防災月間」としたらどうか。

答弁 (1) 市内10箇所や集落単位で開催する土砂災害危険箇所説明会でメール加入の優位性と手順・要領の資料を配布し加入率向上を図っている。現在の加入者数は、2300名である。自主防災組織は平成30年度までには100団体の設立を目指し、最終的には300団体にしたい。現状としては16団体設立できる。

②8月3日から9日まで重点週間と位置づけ『命を守る防災月間』を8月とすると趣旨、思いは共有できる。どういう形にする事が一番市民にとって、行政の責任を果たす仕組みづくりとして有効なのか。新年度に向けて検討を進めていきたい。

質問 6次産業化への取り組み

①本市の6次産業化への取り組み状況を伺う。

②生産者(農業者)への意識啓発と加工・販売プロデュー

答弁 (危機管理監) 現在、全地区と戸別集落毎に説明を実施している。担当者の意気込み、思いがものを動かす大きな力となると認識している。真剣に市の防災力を上げていきたい。

(稲田修記)

一般質問



・観光について
・住みよい魅力ある地域づくりについて

議員 真崎寿浩 翠巒会

観光について

質問 仙北市の観光としての抱返り溪谷の開発・保護・整備について伺う。

答弁 抱返りは県内観光を牽引する役割を担っている。溪谷の美しさ、心の癒し、精神的な抛り所を与えてくれる大切な地区、財産と捉えている。

安全対策として、19年度に岩盤や斜面からの落石、土砂流出が頻繁に起き、遊歩道の利用が危険な状態となったので抱返り溪谷歩道危険箇所防除事業工事を行っている。

23年度には13号橋の改修工事、24年度には16号橋の改修工事と崩落による歩道整備工事、今年度は11号橋、歩道2カ所の補修を行い、観光客の誘客、安全対策に努めてきた。

市道夏瀬線の神代ダム貯水池までの舗装、ダムを通って百尋の滝までの通行、抱返り神社から神代ダムまで回遊できないかなど本格的な検討を26年度から着手したい。

遊歩道の補修は、多額の金額がかかり、県事業実施は困難な状態が続いている。

質問 抱返り紅葉祭において、観光客の受け入れ体制は万全であったか。駐車場、トイレ、案内板の課題をどう捉えているか。また各種

イベント、お祭り、行事に来てほしいと発信しても受け入れ体制が不十分と思うが市長の見解は。

答弁 紅葉祭、地域運営団体等でご難儀している方々を中心に、市役所関係の各部署との意見交換をして将来ビジョンづくりに着手したい。

地域の特徴として、各種沢山のイベントを行っているので開催経験から相応のレベルと想っている。市民全体でお客様をおもてなしすることが理想である。

質問 水は命の根源である。神代地区の水道事業について伺

う。

答弁 市全体では、25年度計では東前郷と神代地区、企業会計では雲然田中八割地区、企業会計単独では中川地区を計画的に実施している。

未普及地域は、神代・雲沢・中川・白岩地区の一部、角館上水道の認可区域内でも碓・岩瀬下野地区でも未整備がある。

梅沢・神代・小松地区の未普及解消のため、卒田黒倉地区で水源調査を実施している。26年度は再度井戸掘削を行い、水量を確定したうえで基本計画を策定したい。

答弁 (企業局長) 今年度予算措置して水源調査をした。個人の方からお借りしたものである。口径100mmで深さは42mだった。さらに電気探査したところ70mほどでまた水源があることがわかった。

来年度は、口径150mmでそこまで掘って水量を確定し基本計画を策定したい。

質問 行政財産の管理について
建物、各種施設、道路、橋梁などの行政財産の安全対策も含めた管理の考え

方について伺う。

答弁 道路改良等の整備については、基本的に緊急性を伴うもの以外の場合、公平性及び公益性を考慮したうえで優先順位を整理し整備を進めている。

市道の維持管理は角館・田沢湖地域センターに現場対応できる建設課勤務職員を配置し、維持修繕、安全対策を行っている。

劣化の激しい路面や橋梁の高覧等については、早急な原因究明と対応が必要になっている。橋梁長寿命化修繕計画で、26年度から35年度まで、橋長15m以上の橋梁88橋を修繕工事実施する。道路についても、26年度から社会資本整備総合交付金事業の路面正常調査道路ストック総点検で1万3100mを計画している。

毎回同じ個所で多くの不具合があると指摘あったが、補助事業は原型に復すことになっている。改善し補うことができるような復旧事業を創出してほしいと国会議員や関係省庁に働きかけていきたい。

(平岡裕子記)



溪谷展望所(東屋)からの「回廊の滝」

一般質問

・結婚支援について

民政会議 門脇民夫 議員



結婚支援で少子化防止対策を
(模擬披露宴の一コマ)

質問 結婚支援について
ベクトンな部分が強く行

の必要性を感じている。市

秋田県でも県の結婚支援セ
ンターがあるので、全市町村
がオール秋田で結婚支援を行
うべきでないか。

答弁 独身の方の80%が結
婚をしたいとのデー
ターが出ている。

官民が一体となって、独身
の方々の出会いの機会を提案
するなど、充実させていくこ

政が携わらるべき領域でない
と考えられていたが、現在の少
子化の流れの中で、全国の県
の70%、また、全市町村の
20%が結婚支援を行っている。
特に新潟県（人口237
万人）においては、人口減少
に危機感を持った県と市町村
が情報交換をしながら一体と
なって結婚支援を行っている。

除雪車の出動基準につ いて

質問 去年、出勤や通学の
時間帯までに、市道が
除雪されていないとの苦情が
多く寄せられたと聞いている
が、除雪しなければならぬ
時間帯までの、積雪観測体制
や除雪車の出動体制について
伺う。

答弁 角館、神代、西明寺、
生保内の各地区は、建
設課職員が午後10時～午前0
時まで道路パトロールを行い
積雪10cm以上、もしくは、同
程度以上の積雪が予想される
場合に委託事業者に出動指令
を出すこととしている。

また、松木内、上松木内地
区は、委託されている除雪監
視員が予想を含めた積雪の調
査を行い出動可否かを、判断
している。

除雪オペレーターの技 術講習会について

質問 今年、秋田市において
は除雪経験3年未満の
オペレーターに技術講習を
実施したと聞かすが、仙北市でも
実施したのか

答弁 仙北市では実施してい
ないが、円滑な除雪作
業と情報の共有化を図るた
め、シーズン前とシーズン後
了時に除雪会議を開催してい
る。尚、除雪オペレーターのさ
らなる技術の向上を図るため
講習会の開催を検討してい
く。

住宅密集地の除雪ス ペースの確保について

質問 除雪車両が排雪する
雪の塊まりを玄関前に置かな
い丁寧な除雪ができるか
が本市ではそのペースが確
保されているか。また、除雪
スペースを提供してくれた方
に冬期間の固定資産税を減免
する市町村もあると聞かすが仙
北市ではどうか。

答弁 除雪スペースを提供
していただける方の調査を
実施したことがある。しかし、
空き地の持ち主が不明であっ

地域防災計画の見直し について

質問 市は先達供養佛地区
の土石流災害後、議会
全員協議会において、この教
訓と対策について説明した。
この内容が来年度市の行う地
域防災計画の見直しに反映さ
れるのか。

答弁 秋田県の地域防災計
画が、来年の3月まで
に大規模地震を想定した内容
に見直しをされる。市の防災
計画もそれに併せて見直し作
業中で、この度の土砂災害で
得た教訓をふまえて対策事項等
が計画に修正、追記される。

地域防災力の向上・防災体
制の整備・地域の特性を考慮
した防災、減災の充実・安全
避難の環境整備・災害時の要
援護対策・観光地における災
害時の避難体制など総合応援
体制の整備等に焦点を絞って
見直しを図っていく。

(伊藤邦彦記)



総務文教常任委員会

本会議において付託された議案は、条例関係1件、集中管理、生保内財産区の各特別会計2件、請願1件である。

また、予算常任委員会より仙北市一般会計補正予算（第11号）の内、当分科会に係る案件が分担された。

■議案第132号

仙北市集中管理特別会計補正予算（第1号）

問 職員11人の減少により、業務に影響はないか。

答 新規採用もあり、差し引きして11人の減であるが、各部署の協力をいただき業務を行っている。また、来年度に向けて再任用制度の運用について関係者と協議をしている段階であり、退職者、新規採用者合わせてカバーしていきたい。

今後、一体型庁舎に向けた機構改革に伴い、職員の業務体制を見直す事により、環境整備についても検討に入っている。

■議案第138号

仙北市生保内財産区特別会計補正予算（第2号）

問 財産区管理会費の旅費について、3月に猪苗代で開催されるモーグルワールドカップへの視察研修のための旅費という事であるが、今後、本市で開催されるモーグルジャパンカップ及びワールドカップの成功に向けての視察ならば、財産区の委員だけよりも、教育委員会等の専門家も一緒に視察した方が良いのではないか。

答 教育委員会では、大会運営と競技関係の視察が行われるようである。財産区は田沢湖スキー場の土地所有者でもあり、スキー場の運営にも関わっている株主でもある。財産区の視点に立ち、ワールドカップでのスキー場全体の運営関係の視察し研修を行うものである。

■請願第3号 カヌーコース被害に関する請願書

8月の豪雨で流されてしまったこのコースは、日本で

唯一の公認コースだった。このコースを復旧する事により、東京オリンピックの際に外国人も練習場として使用できる。カヌーを盛んにする事で、国体での秋田県の順位向上の為に役立つ。日本のカヌーの為に大切なコースであるので、ぜひ作っていただきたいとの賛成意見があった。

採決の結果

議案3件については、全会一致で原案を可とすべきものと決定した。請願については、採択すべきものと決定した。

■議案第131号

仙北市一般会計補正予算（第11号）

教育委員会関係の美術館費、常設・企画展示費の内、藤あや子展について質疑が集中した。

問 総体の事業費について、今回の補正額115万8千円、平成26年度当初予算の見込額として約162万7千円の他に、更なる経費はかからないのか。

答 かかる経費の全てを見込んでいる。

問 美術館運営審議会では、平福記念美術館で開催すべき



モーグルジャパンカップ、ワールドカップの開催が予定される黒森ゲレンデ（たざわ湖スキー場）

という意見で一致したのか。

答 運営審議会の委員の中にはプロの画家もおり、美術的に如何かとの意見も出されたが、平福記念美術館の名を知らしめる為の集客という側面や、藤あや子さんが地元出身という事も考慮し、開催という結論に至った。

問 平福記念美術館の権威が損なわれないのか。地元を応援するという事ならば、例えば、町中の蔵を活用する事により、お客様を町中に誘導する事も検討されたのか。

答 運営審議会でも同様な意見があり、美術館の権威という事も議論されている。しか

し、秋田市のエリアなかいちにある美術館でも、大衆的、サブカルチャー的な要素を含む作品展も開催されている事から、美術館の展示に対する考え方は、より多様化している風潮にあるのではないかと、いう意向でまとまった。

この展覧会の出発点は、藤あや子さんご自身が「片岡鶴太郎展」を鑑賞された際、ご本人から、このような形で仙北市に元気を与えられたらという思い入れから端を発したものである。

（田口寿宜記）



市民福祉常任委員会

本会議より付託された案件は、議案5件。予算常任委員会から付託された議案は1件である。

■議案127号

仙北市国民健康保険条例の一部を改正する条例制定について

問 源泉分離課税から申告分離課税とする内容であるが、具体的にはどのような課税方法になるのか。

答 所得税及び住民税において特定公社債等の利子所得及び譲渡所得があった場合、今までは源泉分離課税にて源泉徴収により申告していたが、平成29年度より、金融商品に係る損益通算範囲の拡大と併せ、確定申告による課税方式に変更するものである。

■議案128号
仙北市後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例制定について

■議案136号

平成25年度仙北市国民健康保険特別会計補正予算(第3号)について

■議案137号

平成25年度仙北市介護保険特別会計補正予算(第2号)について

■議案第140号

平成25年度仙北市病院事業会計補正予算(第1号)について

問 災害派遣医療チーム通称DMAT(デイマツ)の活動内容は。

答 震度6弱以上の地震が発生した場合や津波警報が発表された場合などの大規模な災害が発生した場合、隊員に待機命令が出され48時間以内に行動できる体制を整え、被災地に派遣され医療活動を行う。

問 構成はどうか。

答 医師1名 看護師2名 調整員2名の5名。調整員2名は放射線技師と事務員を検討している。

以上の5議案は全会一致で可と決定

議案131号

平成25年度仙北市一般会計補正予算(第11号)について

社会福祉費

●老人福祉施設措置費負担金567万2千円について

問 寿楽荘入所者の措置費負担であるようだが、入所者の状況について知りたい。

答 12月12日現在66名である。仙北市37名、他町村29名である。

最大入所可能数は、80名。新しい施設は75名となる。

問 寿楽荘の移転改築状況について何う。

答 12月10日現在で78%の進捗状況である。12月中に完成し1月に機械設備を配置して末には引き渡しが行われる。社会福祉協議会によると2月中旬には引越しが完了する見込みと伺っている。

県の補助事業であるが現在使用の施設は解体し更地にして3月いっぱい完了する。

児童福祉費

●子ども・子育て支援事業費1128万6千円について

問 子ども・子育て推進事業費の詳細を知りたい。

答 27年4月からスタート予定の新しい子ども・子育て支援制度に向けての準備費用である。新しい制度の下では、実施主体の市町村が、すべての児童について保育の必要性の認定を行うことになる。その上で支給認定をするため、それに伴う給付費の支給に関する審査・支払等を行う必要がある。必要な情報を国・県と共有するシステムで全国一斉に整備される。

全額、国の補助として26年度に支払われるが、25年度内に発注が条件となる。来年7月からテスト運用できるようにしたい。

災害救助費

豪雨災害復興支援事業費81万2千円について

問 災害義捐金の配分状況は。

答 先達地区に対し、配分委員会の決定を経て、1回目を11月に305万5千円を支払っている。全体で635万円を第1次配分としている。2月、3月にも追加配分があると思う。

災害救助費

●職員給与費670万3千円について

問 内訳は。

答 8月9日の先達地区土砂災害時の職員時間外手当がほとんどである。

8月9日から14日まで、避難所の運営、飲料水の手配、救出等述べ315名、2304時間の時間手当として472万9千円である。残りは、監視センターの職員、土日の勤務等に支払われる。各担当部署の合計がすべてこの中に入っている。災害救助法が適用されており、国・県からの補助が得られる見込みである。

1時間の平均単価は2405円、一般職一人当たり平均は4万9244円である。

水道費

●簡易水道事業特別会計繰出金28万3千円について

問 内容は。

答 電気料の増額見込みと当初予定していた料金収入の減少による。収入が減少すれば繰り出すことになる。(平岡裕子記)



産業建設常任委員会

本会議より付託された議案は8件、請願1件、予算常任委員会より付託された議案は1件である。

■議案第139号
平成25年度仙北市簡易水道事業特別会計補正予算(第1号)

■議案第129号
仙北市市営土地改良事業分担金徴収条例の一部を改正する条例制定について

問 消火栓が設置できなかった影響はないか。地域にはこの事を周知徹底されたのか。 拡張事業の引き込みに必要な経費は、ばらつきが大きいが基準等は考えられないのか。

■議案第130号
平成25年度仙北市簡易水道事業特別会計への繰入額の変更について

答 住民からの要望で予算化したのが、主水管が50mmの管口径のため設置できず、防火水槽等で対処する。地域への周知は環境防災課で対応している。消火栓が設置できなかったのは当初予算時の管口径の見直し誤りであった事を陳謝する。

■議案第134号
平成25年度仙北市集落排水事業特別会計補正予算(第1号)

引き込みに関する経費は、条件や業者によって違うので一概に基準を設定する事は出来ない。説明会等では、複数社から見積もりを頂くよう説明している。今後もううしたい。

◎以上の5議案については全会一致で可と決定

全会一致で可と決定

■議案第141号
平成25年度仙北市水道事業会計補正予算(第2号)

問 水源で困っている神代地区で、水源地調査を実施し、水が出たにもかかわらず、揚水試験等の次の段階に向けて、補正予算等での対応は考えられなかったのか。

答 卒田黒倉にて、民間の方が掘った井戸が有望との事から、揚水試験を実施した。まだ水があるのに、スクリーンの状態の空隙率が低く、最大値を確認できない状態であった。今の管を引き抜いて、新たに管を入れる予算も難しい。電気探査をしたところ40m地点には間違いなく水があり、70mの所にもある事が判明した。来年度は、それらを併せて揚水試験を実施し、基本計画に結び付けたい。

◎委員からの意見
神代地域では、長年の悲願だった水道整備である。水源が発見されたら、早急に次の段階へ進める事と空白期間のない事業計画をし、困っている住民の要望に応える事。

全会一致で可と決定

■議案第142号
公の施設の指定管理者の指定について

問 「かたくり館」の小破修繕はいくらまでか。賃金形態はどうなっているか。

答 5万円を小破修繕とし、指定管理者が行う。賃金は秋田県の最低賃金としている。

■請願第4号
久保川第二本流改良促進に関する請願書

◎本請願については、受益者の姿が見えない等の点があり、更に慎重な審査を必要とする為、継続審査とする。

■議案第131号平成25年度仙北市一般会計補正予算(第11号)

【歳出】
●6款2項1目 林業費
木質バイオマス施設管理運営費

問 ①当初予算の倍の補正予算になった理由と年度末で、4千万強の赤字見込みである

が今後の稼働はどうなのか。
②仙北市の山からの間伐材使用量、チップ使用量、CO2がいくら削減されたか等の数字が出てきていない。環境面でも市民に説明できないと意味がない事業になってしまうのではないか。

③新年度予算に検証結果を反映させなければ予算の考え方に合わないのではないか。
答 ①当初予算要求が財政上発電努力を含めての査定となり、明らかに足りないのので補正予算をお願いしている。 今後は発電の予測がつかない。運転して見なければわからないのが現状である。

②森林組合等から数字を把握し、森林の伐採等の報告をしたい。CO2削減量は小学校の見学会の折に数字を出しているのので今後報告の時、載せるようにしていきたい。
③検証を25年度内に終えたいが、委員の都合で伸びている。結果を新年度予算に活かしていきたいと考えている。

●7款1項 商工業振興費
企業誘致対策費

問 ①工場設計画に変更はないか。着工はいつになるか。
②雇用面で、新規採用の計画は推進しているか。中途採用

になり、募集をかけても新卒での優秀な人材が集まらなくなるのではないかと。

③水路の切り回しが田植時期と重なるがどうするか。(株)司食品工業が土地を含めて買い取るの答弁だったがそれが良いか。

答 ①用地取得が遅れ、開発行為等の申請ができない。着工は来年7月から8月になる予定である。

②当初30人位の計画である。15人程度を雇用し試験操業まで青森工場研修をさせたいとの事。年度途中なので、早めの確定と二次募集をどうするかも検討していきたい。

③春先には、現水路のまま使用し、造成工事の折に水路の切り回しをする計画なので水を止める事はない。会社の財産として取得したいとの事である。単価等についてはまだ決まっていない。

●8款2項 道路橋梁費 雪寒地域建設機械整備費

問 ①除雪体制を100%民間委託にしたが対応は良いのか。除雪単価を見直したのか。
②枝線から幹線の道路に出られない状況にある。民間へ委託した事で住民に配慮した効

率的な除雪体制にならないのではないかと。

答 ①すべて業者委託の契約を行った。諸問題は職員で対応する。除雪単価は、時間単価平均千円近いアップになっている。

②除雪作業の永遠の課題である。国道・県道の場合は、後に行つた方という取り決めがお互い苦労している。一番問題なのが歩道である。通勤・通学の時間に合わせるためには、大型の機械と平行して出動する必要があり、緊密な連絡体制をとる事である。細かな指導をしてまいりたい。

(熊谷一夫記)



司食品工業建設予定地

控室

第7回仙北市議会定例会、議員が仲間同士で何を語り、何を思い、本音がボヤキか、それぞれの話題を特筆してみた。

まずは、田沢財産区管理委員の選任同意案について、市政報告において、1人の委員の任期を失念していたと、謝罪と合せて報告があった。同意案が一人歩きしている。なぜ失念したのか検証の場がないのである。議長に対し、この議案の取り扱いについては是正を求める旨、文章で申し入れる。追加提案された市長及び副市長の減給案についても、議案の審査の順番からしても同意案が先行するパターンであり、議員各位も取り扱いはついて休憩を挟み、控室での議論が過熱気味。結局、会期を4日延長し、総務文教常任委員会へ付託、当該委員会では継続審査とした。
次は教育委員会の人事に対する議会への対応である。教育委員長が12月1日付で交

代、教育行政報告では報告されず、印刷が間に合わないのであれば口頭でも可能であり、議員各位は北浦教育研究所の広報でその事実を知る。議会が軽視されたのか、報告義務が無かったのか、市民の皆さんはどう考えるか。

次には、一般会計補正予算で、歌手の「藤あや子展」について話題となった。総事業

費275万5千円、入館者2千人を想定し、本年4月1日から20日まで、平福記念美術館へ絵画や陶芸等を展示する企画展(仙北市民は入館無料)である。話題性なのか、価値観なのか、美術館に展示する基準等々。藤あや子さんが仙北市民に元気を与える企画だそうだが？

(稲田修記)

郵便はがき
0140373

秋田県仙北市
仙北市役所
仙北市市長
市議会議長
殿 殿

お解略 私は去る十一月三日(角館)角館を訪れた七代目旅行家。東京も七時に去る時過ぎに角館に着きました。或る屋敷敷通りに向ったのでその入口で消防訓練が行われていました。何故、紅葉シーズン、旅行客の多い三連休の日にやるとなるとなると、訓練もやると終り迂回して濡れた土の上を歩かされた。靴は汚れ、時間をかき取られたのでゆっくり散策することを出来ませんでした。五月柳家ひゆりりお茶も楽しもうと思いついたのにそれも出来ず、不幸な残念な日でした。消防訓練については、都合の個人個人で、一地方都市の無感で受け止める方も、もちろん私も旅屋敷敷通りに、旅人はこんな素晴らしい場所とゆくり紅葉はいいのだから、何日も前から計画をたて、頑張る東北の民を褒めたい旅人。

市長並びに市議会議長宛 市の観光に対する貴重な意寄せられた、角館町伝統的建造物群保存地区での防災訓練 見として、適切な対応を講ずるよう、12月11日、市長並びに教育委員長に本会議にハガキ(匿名)に対し、市において申し入れました。

市立角館総合病院建設に関する 調査特別委員会の審査経過

議会では、移転新築される角館総合病院の建設について、調査や研究を行うために平成23年11月30日に特別委員会を組織して議論をしてきました。

これまでの調査研究の主な経過をお知らせします。

市は、平成27年の秋のオープンを目標にして、角館病院の移転新築を計画しています。

移転する場所は、落合公園周辺で、基本設計ができあがり、現在は実施設計に入っています。いよいよ、来年度(平成26年度)から建築工事が始まる予定です。

新しい角館病院の機能はこれまでと同じです。規模としては、人口に適した一般病床数が230程度とされていますが、田沢湖病院が60床ですので、角館病院の一般病床数は170床と、現在の病床数より少なくなります。

新しい病院の特徴は、3階建ての病院の1階に外来の診察部門を全て配置して、2階

には170の病床を集中配置するという全国でもあまり例がない配置としています。こうした配置により、患者さんにとつて、より使いやすさと診療の効率化を図っています。

また、患者さんの「待ち時間」を短縮するために、準備が整い次第に電子カルテを導入する計画も含まれています。

総事業費は、建設費や医療用の機器を含めて約73億6千万円と予定されています。

これまでの議論を通じて心配されることもいくつかあります。

それは、これからの2つの病院経営です。

2つの病院に共通する大きな課題の一つに、医師や看護師などの医療スタッフの不足があげられます。一人でも多くの常勤医師を確保するために、市長や医療管理者は奔走していますが、なかなか厳しい状況です。

もう一つは、人口が3万にも満たない仙北市が、2つの市立病院を運営する難しさです。

今のところ、田沢湖病院は長期療養のための慢性的な症状に対応する機能を担い、一方の角館病院は、しっかりと急性期に対応する病院として、互いに機能を補完し合い、どちらも仙北市の病院として位置付けて経営するという市の方針です。

この目標を達成するためには、2つの市立病院や各診療所との連携や、それぞれの医療スタッフの連携などにおいて、総合プロデュースを目的にしている医療局の役割が問われています。

角館病院の移転新築に伴い、新角館病院の建設だけではなく、これからの病院経営のあり方についても提言をしていきたいと考えています。

市立角館総合病院建設に関する調査特別委員会委員長

小田嶋忠



「市立角館総合病院外観イメージ」



一階平面構成

市立保育園・幼稚園のあり方に関する決議

仙北市の保育園・幼稚園においては、これまで待機児童問題をはじめとし、若い世代の臨時職員の多さや、正職員の高齢化、職員間の待遇格差、施設老朽化、財政的課題、経営体制の二重構造、幼保の需要の偏り等、多くの課題が山積している。

こうした課題を速やかに解決し、より良質な保育・教育の環境整備は、喫緊の課題である。

よって、仙北市議会は、子どもたちや保護者が更に安心して利用できる保育・教育体制を確立するために、仙北市に対し、次の事項の取り組みを求める。

1、臨時職員比率、施設老朽化、経営形態の違いなどに対する事項

臨時職員比率の多さ・施設老朽化対策・経営形態の二重構造・幼保の需要の偏りに対し、その解決策として、市内保育園・幼稚園の経営を社会福祉法人等による「民設民営型の法人運営」に移行すること。

2、民設民営型の法人運営に移行する場合の絶対的条件

- (1)子どもに対する最善の利益を優先し、求められる「質」の低下はあってはならないこと。
- (2)保育園・幼稚園の公共性を維持すること。
- (3)十分な説明と意見の聴取を行うこと。
- (4)子ども、保護者の負担を最小限にする努力を惜しまないこと。
- (5)法人化後の市の責務を明確にし、その責任の所在を明らかにすること。

3、待機児童等の課題に対する事項

- (1)待機児童解消の受け皿となっている市内子育てボランティア団体に対する支援を拡充すること。
- (2)「仙北市保育園入所待機児童等支援事業費補助金」を利用者がより使いやすい制度とするよう創意工夫すること。
- (3)「仙北市在宅子育てサポート事業」の実施にあたり、随時、利用者のニーズを把握しながら柔軟な対応を図ること。
- (4)待機児童ゼロを維持する努力を維持すること。

仙北市は、市民福祉常任委員会の「市内保育園・幼稚園の在り方についての提言」内容について、最大限尊重したうえで、速やかに課題解決に向け、取り組むことを強く求める。

以上、決議する

平成 25 年 12 月 20 日
仙北市議会

市区町村議会議員 総務大臣感謝状贈呈

佐藤峯男 議員



10月30日東京千代田区平河町「ルポール麹町」にて総務大臣より贈呈された。

秋田県自治功労者表彰

高久昭二 議員



11月1日秋田県正庁にて受賞された。

仙北市第1回子ども議会 市当局に鋭く質問

仙北市の12の小中学校から24人の小中学生による初の子ども議会が1月9日に開かれた。議員たちは傍聴席で子ども議員たちの鋭い質問に熱心に聞き入ったりメモをとっていた。この子どもたちの中から将来政治に関心を持つ人材が出て欲しい。

(狐崎捷環記)



人事案件

人権擁護委員全会一致で承認

伊東 和子 氏 (西木町榎木内字相内 13-1)

言語道断

今定例会は最終日に会期を延長、異例の運びとなった。12月2日、市政報告で市長から田沢財産区委員の任期を「失念した」との報告があったからである。

これに対し12月20日に「失念した」とは言語道断である。検証し再発防止策を講じ、必要に応じ処分を行い、改めて提案すべきとの申し入れが(議員9名)議長になされた。9月議会に選任すべき人事が議会の同意なくすめられ更に数ヶ月もたってから提案されたが、これだけの失態について責任の所在、処分が不明確であった。

行政にしても、もちろんその時点で緊急な様々な課題があることは推測される。

市民の方々から税金をあらかじめ託された行政遂行には常に予算が生じる。

プロである行政マンは、今一度公金を預かり市民に奉仕する立場であることを認識し慢心することなく職務に精励することを望むものである。

(八柳良太郎記)

